

経済 信州発

システム関連の事業 長野テクトロン拡大

ウイズコム子会社化

電子機器向け入力装置など製造の長野テクトロン(長野市)の持ち株会社長野テクトロングループ(同)は30日、システム開発のウイズコム(岡谷市)の全株式を取得し、子会社化した。システム関連の事業拡大を図ると同時に、グループ内の基幹システムの内製化を進める。

ウイズコムは1997年設立で、従業員10人。文書管理などのパッケージシステムや官公庁向けの電子決裁システムなどを手がける。長野テクトロングループの子会社で、オフィス向けシステムを手がけるライブネス(東京)と共同で開発した案件も多く、グループ化による相乗効果を見込んだ。

ウイズコムは2018年からM&A(企業の合併・買収)を積極的に展開し、23年に持ち株会社の長野テクトロングループを設立。今回の株式取得で傘下企業は計9社となった。県内企業の子会社化は、特殊プリンター製造のマスターマインド(塩尻市)に次いで2社目となる。

グループ全体の26年1月期の売上高は約50億円の見込み。長野テクトロングループの柳沢由英社長は「各社の販路の掛け合わせや共同開発、M&Aの加速によって29年1月期の売上高100億円を目指す」と話した。